

## 第21回パート・派遣など 非正規ではたらくなかまの全国交流集会 in いわて



2013年6月1、2日2日間で700名の非正規の仲間が集い、岩手県一関で開催されました。初日の全体会は岩手のうたごえ合同合唱団による復興を願う歌で歓迎セレモニーが始まりました。

主催者の大黒作治さん（全労連議長 非正規センター代表）は安倍内閣の三本の矢政策で株が上がり、円安になったがみせかけだけだ。第2次安

倍内閣の成長戦略は非正規を増やすことで景気回復をもくろんでいる。政治の転換をしなければならぬと訴えました。

「弁護士は見た！ 日本の貧困と政治」と題し宇都宮健児弁護士の記念講演がありました。宇都宮さんは弁護士を2度解雇された経験の持ち主です。解雇された時に勧められたサラ金の救済の仕事がきっかけで30年間続けることになりました。そしてサラ金救済を続けていく中で、サラ金業者だけの問題ではなく、背景に貧困問題があることに気づき、貧困問題にも取り組むようになりました。2009年民主党が政権につき、野田内閣で格差が広がり貧困率を出しはしましたが、削減目標を政策にはしませんでした。年金が低いために生活保護の38%が高齢者です。貯蓄ゼロ世帯も26%まで増えており、借金をしてしまう状況です。フランスやドイツなどでは高利貸しの被害がありません。政策で銀行が低利で貸しているからです。社会保障制度の充実が必要です。今、人々は友達もなく、実家も失い孤立しています。労働組合は人のつながりができる重要な場所です。泣き寝入りしている人に手を差し伸べる活動をして欲しい。28歳の母親が3歳の子どもと餓死した事件は記憶に新しいが、子どもにお腹いっぱい食べさせたいと手紙を残していた。憲法25条の生存権保障を社会的に定着させる運動が大切だと訴えました。



基調報告では非正規センター事務局長の江花新さんがパワーポイントを使って、安倍政権の暴走が始まった。悪政に反撃の共同が広がっている。参議院や都議選につなげてストップさせよう。ディーセントワークの課題と改正労働契約法にかかわる取り組みを強め、雇用の安定を求めて行こうと訴え、人間らしく生活できる世の中を目指して団結して頑張ろうと訴えました。

「東日本大震災被災地からの報告」と題し、岩手県医労連書記長鈴木哲夫さんが、パワーポイントを使って津波が襲ってきた瞬間を撮った写真を見せながら、いかに高い津波が襲ってきたか説明されました。復興はなかなか前に進まず、岩手の非正規労働者の時給が653円と低い実態やコンビニやホームセンターも仮設で、仮設住宅のメンタル問題もある。その中でも全国からの暖かい義援金は続いており、個人的に送ってもらった義援金で落語会を開催し、被災した人達から久しぶりに笑ったとの声をもらったという報告がありました。

全労連ヘルパーネット「オーストラリア介護労働者組織化調査報告」ではヘルパーネット世話人・生協労連委員長北口明代さんから、オーストラリアはエキサイティングでチャームな人達が楽しく仲間を増やしているという報告がありました。オーストラリアの介護現場では同じ看護師でも医療現場と介護現場では収入が違う実態があります。リサーチ



チャーをして企画書を作り、ロビー活動など世論で推していく活動で拡大を勧めています。また、オルグ担当が職場委員を毎月1回訪問。オーストラリアも男性だけが働く時代にはもう戻らない、女性も働くんだと強く言っていました。運動したから今の賃金があるのだと訴え、仲間が仲間を増やす活動、非正規の組織化をめざしていますと締めくくりました。

リレートークでは、福島生協労組パート部部会長の椿のぶえさんが今年の春闘でパートの無期雇用を勝ち取った成果を発表しました。

争議団ではマツダ訴訟原告団の佐藤次徳さんが発言。給与以外は全て社員と一緒に労働条件だったが、解雇された。世の中を変える必要があると気づきました。これからも支援をお願いしますと訴えました。



全大会の締めくくりに「解雇・雇い止めの撤回」「最低賃金1000円以上」「雇用の原則は無期雇用と均等待遇」「正社員が当たり前の社会」などを盛り込んだ集会アピールを採択して初日の全大会を終了しました。

2日目は14の分科会に分かれ、学習と交流を深めました。

#### ●11分科会「メンタルヘルス問題」入門講座

日本の精神科の歴史は隔離政策であり、今もそのイメージが拭い去れていない。日本は諸外国に比べて病床は増え続け、入院期間が長いのが特徴だ。短期間の入院後社会の中で回復を図ることが世界の主流であるが、そうはなっていない。

精神疾患は誰もがかかる可能性を秘めているが、風邪ほど理解は進んでいない。精神疾患はストレスによる脳の疲労による精神の働きの低下である。過労死ラインは月 80 時間を超える時間外労働が認められる場合、業務との因果関係が強いと評価されている。そのこ



とからも分かる様に、長時間労働が精神疾患の大きな要因であると考えられる。

パワハラ問題は上下関係が厳しく、上司の裁量権が強く少人数な職場で発生し易い。パワハラは職場での人間関係が続くため、証言すれば立場が悪くなる等、実証が難しい側面がある。

予防、解決策は一人で悩まず気分転換など、頭を休めることが大切。再発しやすいのも精神疾患の特徴だ。薬を途中で勝手に止めるとストレスに対する過敏性が出てくる。薬を飲みながら復帰をすることが大切。休んでいる間に体力が落ちているので急に頑張ると体力を消耗し気力も落ちる。まわりの対応は、孤立させないよう身体の病気で復職した場合と同じ対応が望まれる。

分科会終了後、会場周辺を「みんなで行動する地道な活動が、いつかは世の中を動かすんだよね！」と大きな声で訴えながらパレードをしました。

生協労組おかやま 山本 泉